

まずは
ココから!

消費税の仕組みを 押さえておこう

インボイス制度は消費税の通知に関する制度だ。そこでまずは消費税の基本的な仕組みについて、図解を交えて解説する。

消

消費税は国内において消費される財やサービスに対して、消費者が負担する税金の1つだ。例えば小売店で食材を購入したり、飲食店で食事をしたりする際に代金を支払うが、消費者は原則として代金と合わせて消費税を支払っている。

ではこの消費税は、誰がどのように納めているのだろうか。消費者からすると小売店に対して消費税を支払っていることになるが、この消費税を預かった小売店がそのままに納めているかというところではない。

✓ 負担者は消費者だが納税は事業者が行う

小売店から購入するのは、消費者だけではなく事業者もいる。また、卸売業者は事業者だけに販売しているのではなく、直接消費者へ販売する場合もある。そうした経済活動の中で、「消費者だけから消費税を受け取って事業者からは受け取らない」ようにするのはとても煩雑だ。そのため、現在は消費者と事業者のそれぞれが消費税を支払いつつ、実質的に消費者だけが税を負担するような仕組みの下、消費税が徴収されているのである。

例えば小売店が食材を消費者に販売するまでも、**次ページ**の図解のように多くの事業者が関わっている。小売店に食材を販売する卸売業者、卸売業者に食材を販売する製造業者、製造業者へ原材料を販売する農家――。

食材はこのように多くの事業者を介して最終的に消費者に販売されるわけであるが、その各段階において、取引の都度消費税の受渡しをするようになっていく。

卸売業者であれば、小売店

から売上代金と合わせて消費税を受け取り、製造業者に仕入代金と合わせて消費税を支払う。製造業者であれば、卸売業者から売上代金と合わせて消費税を受け取り、農家へ仕入代金と合わせて消費税を支払う。このように、各事業者には消費税を「受け取る立場」と「支払う立場」の両方があるのだ。

ここで仮に、各事業者が受け取った消費税をそのまま納めるとどうなるだろうか。仕入れた物をただ販売する単なる転売事業を考えると、1つの商品に対し転売元と転

